

9月 芸術鑑賞会

西高の「芸術鑑賞会」は毎年秋に、演劇→古典芸能→音楽のローテーションで開催されています。本物の芸術に触れることができる素晴らしい時間です。今年は古典芸能として「和泉元彌の狂言らびい」をコラーナ文化ホールにおいて鑑賞しました。



「過去に行ってみよう。昔の人々の感性に触れてみたい」と古典の授業でふと思うことがある。そんな私にとって今回の狂言鑑賞は私を過去に連れていってくれた。笑いの面において変わらない日本人の感性。鑑賞している間、私は600年前の日本人になった感じがした。このような機会を通してもっと日本人らしさとは何かを知りたいと思った。 2年 加藤通香(北西中)

「狂言は室町時代の人々と心を通わせることができる」この言葉の通り、私は狂言の鑑賞は時空を越えたタイムスリップではなく、生きた感動を誰もが同じ瞬間に感じることができるということを実感した。いまと昔の人々では、興味や関心を持つ対象は違っても、心の奥底に抱えている喜びや感動は変わらない。このことは時代が進んでも変わらないで欲しい。 1年 金子舞(山梨大附属中)

9月 秋季球技大会

西高では年に2回(秋と春)球技大会が行われます。期末試験終了後に、サッカー・ソフトボール・バレーボール・バスケットボール等数種目において学年オープン制のトーナメント制で戦います。クラスの団結も高まる学校行事のひとつです。「負け犬の泉」もお楽しみに。



快晴の9月29日に行われた球技大会は新生徒会役員で運営する初めての行事でした。放送部とコラボした「甲州弁ラジオ体操」で始まり、最後の先生チームとのソフトボール対決まで、西高生の素晴らしいプレーがたくさん見られ、大成功の1日でした。3月には春季球技大会もあります。クラス最後の思い出に全力で楽しませよう。 生徒会 体育局長 2年 雨宮 菜(御坂中)

10月 健康の森ウォーキング大会

10月には、甲府市の緑が丘スポーツ公園をスタートし、千代田湖畔の武田の杜を経由して西高をゴールとする全長15.2kmの「健康の森ウォーキング大会」が開催されました。生徒はそれぞれの計画のもと、思い思いの秋の1日を満喫しました。



私たち3年生にとって最後のウォーキング大会は天気に恵まれ気持ちの良いスタートを切ることができた。周囲の山々を見渡せば木々が紅葉し始め、季節の移り変わりを感じた。日常生活の中で外の景色に目を向けることが少なかったため、とても新鮮な気持ちになった。友達とたわいもない話をしているうちに学校に着いてしまったが、受験勉強で毎日机に向かっていて私にとって、本当に良い息抜きとなった。 3年 小田切 歩絵美(白根御使中)

11月 国際交流(中国高校生訪日&EUがあなたの学校にやってくる&米国短期留学)

昨年のベトナムからの訪日団に続き、今年は約30名の中国の高校生が西高を訪問しました。短時間でしたが授業や部活動での交流が楽しめました。また「EUがあなたの学校にやってくる」ではチェコ大使館の事務次官が来校し、EUの成果や問題点などについての講演をいただきました。3月には米国ロサンゼルス姉妹校キャンベルホールスクールへの短期留学も実施されます。西高は国際理解・交流に力を入れ、国際社会で活躍しようという意欲を後押ししています。



《EUがあなたの学校にやってくる》に参加して》
日本に比べて多くの民族から成り立つEUの考え方は、私たちも生かしていくべきだと感じました。いろいろな考え方が様々な場面で反映されていく「学校」という集団の中で、私達はEUと同様に話し合いを丁寧重ねて平和的に物事を解決していく、という簡単であまり考え方を重視することが求められると思います。自分の利益だけでなく、全ての人が納得するような答えを導くことの大切さを学びました。 2年 小林 環(上条中)

《米国短期留学に参加して》
キャンベルの学校生活では、授業中の立ち歩きやお菓子や飲み物が自由で最初は戸惑いました。パソコンを使用した授業が多く、生徒も宿題をパソコンでやっていました。机の配置も日本とは大きく違いました。アメリカは机が円の形に並んでいて、お互いの顔を見ながら発言できる雰囲気でした。ホストファミリーに「なんで座ったまま授業を受けないの?」と聞いたら、「さまざまな人種の人々が集まっているからだよ」と言われました。また、話し合い形式の授業が多く、授業中に静かになる時間があまりなく、まず先生が質問を投げかけ、その後は生徒が授業をつづけているような感じで、ほとんど全員が自分の意見を発言していました。自分の意見をしっかりと持っていて、考える授業、積極的な授業態度がすごく印象に残っています。 3年(留学当時1年) 定金咲紀(押原中)

「キャリアビジョン形成支援事業」

西高では県の「キャリアビジョン形成支援事業」の一環として、様々な形で将来のキャリアビジョンを考えるプログラムを行っています。

1年次 キャリアガイダンス(職業編)

毎年1年次生では、進路&職業選択の幅を広げるためのガイダンスを行っています。10月には本校卒業生5名をお招きし、「社会を担う自立した社会人」をテーマにパネルディスカッションを開催しました。

 公務員(福祉事務所) 石部 文人さん H16年3月卒業 「自分に自信を持つ」この思いをベースに目標のために努力を惜しまない。	 小学校教諭 鈴木 佐和子さん H17年3月卒業 悩むこともあるけど、自分が選んだ道信じて、楽しく心豊かに。	 看護師 井戸 理紗さん H21年3月卒業 “何が正解か”はない。自分に向いているものをじっくり考える。いまを楽しんで。	 会社員 旅行関係 鈴木 温介さん H21年3月卒業 いろいろな選択肢を見つける。西高には一生懸命できる環境・自由がある。	 会社員 食品研究職 後藤 優佳さん H23年3月卒業 どんなことにも恐れず挑戦して欲しい。大切な仲間を見つける。
--	---	---	--	--

一番印象深かったのは、どの先輩も最初から今の仕事に就きかけた訳ではないということだ。大学などで自分が本当にやりたいことを見つけたという話を聞いて少し安心した。先輩達の話にもあった通り、進路に向けて努力しつつ、かけがえのない西高時代を全力で楽しみたい。 1年 中込 颯真(竜王中)
高校時代の話だけでなく、実際に今の仕事の状況についても聞くことができ、将来の自分を考える上で参考になった。先輩達に共通していたことに「仲間を大切に」という言葉があった。私にも支えてくれる大切な友人ができた。これからも共に楽しく明るく過ごしていきたい。 1年 高木 万梨乃(押原中)
失敗したことやもっとこうすれば良かった事など西高での経験談を聞けたので、これまでの自分を直す良いきっかけになりました。自分の将来の選択肢を広げるためにも、いろいろなことにチャレンジして、夢中になれる何かを発見するため「ちょっとずつ」努力していきます。 1年 遠藤 理沙(田富中)

1年次 キャリアガイダンス(進学編)

10月の職業編に続き12月には進学編として、国際関係学、法学、教育学、心理学、工学、理学、薬学、医学、看護学、保健医療学等から計13講座を設け、それぞれの専門の大学の先生方から講義を受けました。



看護学に参加して
近年、看護師の多様化が進み、病棟勤務が減っているということにとっても驚きました。患者さんがとても苦しんでいる姿を見ながら近くに寄り添ってお世話をすることは辛いのに笑顔で聞ける看護師さんをもとても尊敬します。患者さんの家族の心のケアも欠かせず行うことは本当に感謝するし、素晴らしいと思います。今日伺った理想の看護師さんの中にはできないかもしれないけど、人の心と身体をサポートできる仕事に就きたいと強く思っています。 1年 櫻井 伶菜(田富中)

法学に参加して
「専門分野を学ぶことは専門的な眼鏡を得ること」という先生の言葉がとても印象に残った。専門分野を学んでその視点で物事を見ることが大学で学習する意義だと思った。だからその大学までの必須課程である高校の勉強を一生懸命しようと思った。今やるべき事に精一杯取り組み、大学や将来への糧にしていきたい。「法律学」という学問に初めて触れてみて、視野が広がった。こんなにたくさん学ぶことがあるのかと驚き、他の学問にも目を向けていきたいと思った。 1年 秋山 葵(白根巨摩中)

理学(物理系)に参加して
物理学は昔、「自然哲学」といわれ、自然に思いをはせる学問だった。自然(日常生活など)の様々な現象は、自分たちには当たり前のことだと思っても、数学を道具とすることできちんと表現することができるのが物理の面白さなんだろうなと思った。学校での勉強はどうしても視野が狭くなりがちだけど、大学の専門の先生の講義を通して視野が少し広がったかなと感じました。これからは物理学や数学の勉強に興味・関心を持って楽しみたいと思いました。 1年 深田 爽太(甲府西中)

国際関係学に参加して
「アジアと日本」と「アジアの日本」の含む意味の相違がテーマの講義でした。それを明確にするには、今のアジアの問題や日本の経済問題、かつての経済体制についての理解が必要でした。例えば少子高齢化の対策で移民をたくさん受け入れることに反対が賛成かという話では、様々な人種を受け入れることの抵抗が私たちに問われました。今までアジアの情勢について他国の立場で考える事がなかった私は、この講義で新たな視点から考えるという事を学ぶことができました。 1年 井上 菜緒(甲府北中)

「先端研究・技術体験プログラム～筑波学園都市の研究施設の見学研修～」

1,2年生の希望者40名で茨城県つくば市に研修に行ってきました。

 [CYBERDYNE STUDIO] つくば市のベンチャー企業「CYBERDYNE STUDIO」に行き、筑波大学発のサイバニクス技術が駆使されたサイボーグ型動作支援ロボットスーツ「HAL」の装着体験をしました。生徒ひとりひとりがセンサーを装着して動作させる実体験を行い、自分の意志で動いたときには、大きな驚きの声がか! Q&Aコーナーでは生徒から次々と質問が発せられ、活発な研修会となりました。	 [JAXA(宇宙航空研究開発機構)] JAXAでは、宇宙飛行士の基礎訓練・健康管理・体力トレーニングの施設見学、および国際宇宙ステーション(ISS)日本実験棟「きぼう」の運用管制室の見学を行いました。運用管制室内のモニターに映し出された地球の映像は言葉で失う美しさでした。	 [筑波大学施設見学] 筑波大学では西高卒の在学生に出迎えていただき、図書館や大学ギャラリーを見学させていただきました。広大なキャンパスに圧倒され、さらに膨大な蔵書と外国語の書籍に圧倒され、英語の重要性を強く認識しました。大学での勉強や学生生活、受験についての話も盛り上がりました。
---	---	---

第38回 山梨県高等学校 芸術文化祭

3年青柳百音さんが小説部門で3年連続芸術文化祭賞!!



青柳百音さんに聞きました。

①今回の小説について聞かせてください。内容や書いた時のイメージなど。
「自分だけの言葉が欲しい」というのが全体のテーマで、そんな我が儘を言葉にした瞬間に両思いでも結ばれるのは大変、というストーリーが生まれました。恋愛小説というよりもただ「好き」をどう伝えるか、それだけで悩むお話であることがミソです。

②小説を書く時に意識していることや大切にしていることを教えてください。
芸文祭で三年間審査していただいた先生に「物語は作者と読者両方で作るもの。そして読者に解釈の余地を残すこと」と教わって以来、私が書きすぎないこと、独り善がりな文章にしないことを大事にしています。また、ざらついた文体にすることで、誰にでも読みやすいくを置きやすいお話になるよう心がけています。

③山梨日日新聞に掲載されましたが感想を聞かせてください。
まさかそんなことが、という気持ちです。人間生きていると色んなことがあるんだな……と未だに実感がありません。この事をきっかけに恩師の先生方からもお手紙が届いたり、先生方からも感想を頂けて、温かい糸で結ばれたような気持ちになりました。身に余る光栄です。この機会を与えてくださった山日新聞さん、高文連の担当の方には感謝してもきれません。
※平成29年11月24日、12月1, 8, 15日の4回に分けて掲載されました。

④将来の夢は何ですか?小説とどのように関わっていきたいですか?
このご時世、出版や文芸の世界はとても厳しいようなので恐れのほうが大きい、というのが本心です。ただ仕事にするかどうかはさておき、楽しさを知りすぎてしまったので、大人になっても書くことはやめたくないと思います。

(芸文祭結果)

高校文化部の祭典「芸術文化祭」が11月に開催されました。西高から16部門に159名の生徒が参加し、4つの芸術文化祭賞(第1位)と美術工芸・放送・新聞の3部門で来年度の全国大会への切符を手に入れました。

文学部門 小説の部 芸術文化祭賞 3年 青柳百音(甲府西中)	演劇部門 優秀賞 演劇部
// 詩の部 芸術文化祭賞 3年 西田安利(山梨大附属中)	写真部門 奨励賞 2年 深澤萌(甲西中)
// 詩の部 優秀賞 3年 江里口侑真(甲府西中)	合唱部門 優秀賞 音楽部
吹奏楽部門 優秀賞 吹奏楽部	新聞部門 優秀賞 新聞部
将棋部門 準優勝 1年 田中新太(山梨大附属中)	*H30年全国高等学校総合文化祭長野大会出場
美術工芸部門 優秀賞 2年 坂本菜南子(竜王北中)	自然科学部門 物理分野 特別賞(理科部会長賞) 自然科学部
// 奨励賞 2年 田中美枝(長坂中)	*H30年全国高等学校総合文化祭長野大会出場
// 奨励賞 2年 藤森千晴(甲府北西中)	放送部門 アナウンス部門 芸術文化祭賞 2年 深沢有佳(若草中)
	*H30年全国高等学校総合文化祭長野大会出場
	// 朗読部門 奨励賞 2年 櫻林清香(城南中)
	*1月関東地区高校放送コンクール出場
	// オーディオビジュアル部門 優秀賞
	// ビデオメッセージ部門 芸術文化祭賞
	*H30年全国高等学校総合文化祭長野大会出場



土曜講座 特別編

土曜日の午前中に年に10回程行われている土曜講座では、多くの教科で学力を伸ばすための講義や演習が行われています。12月16日(土)はその特別編として、西高の7人の先生が「学問の面白さ」をテーマに、教科書の枠を飛び出した、探究的で深い学びの楽しさを紹介してくれました。

